

令和3年度 学校評価書 (計画段階(実施段階))

3

福岡県立育徳館高等学校

自己評価
学校運営計画(4月)
学校運営方針
育徳館の歴史と伝統を礎にして、次世代を担う「徳」・「知」・「体」のバランスのとれた人材(次世代のリーダー)の育成に努める。
昨年度の成果と課題
年度重点目標
具体的目標
成果
課題
評価項目
具体的目標
具体的方策
評価(3月)
次年度の主な課題

学校関係者評価
評価(総合)
自己評価は
A: 適切である
B: 概ね適切である
C: やや適切である
D: 不適切である
項目ごとの評価
学校関係者評価委員会からの意見
A
・デジタル課を創設し、生徒の学びの保障につながる教育支援態勢を積極的に推進している。
・英語スピーチコンテストを高校でも実施し、英語力の向上につなげてはどうか。
A
・通学路の安全点検や、自治体・警察・地域住民との協議で街路灯の改善を図るなど、安心安全な学校生活の維持向上に向け努力が見られる。
・スマートフォンの持ち込みや校則の見直しの継続を通して、生徒の自主性の育成が図られている。
・新型コロナ対策に万全を期し、可能な限り、学校行事を実施することで、生徒の達成感や満足感を与えている。
A
・英語力は進路選択や職業選択の多様性をもたらすので、英語検定全員受験を継続して欲しい。
・引き続き大学進学など生徒の希望を実現する指導を工夫改善を行って欲しい。
A
・中高一貫校に対する地域や保護者の期待を考えると、大学進学実績は育徳館にとって大変重要であり、その実績を積極的にPRすべきである。
・管弦楽をはじめ、囲碁将棋部やビーチバレー部など全国レベルの部活動の活躍を積極的にPRして欲しい。
A
・広報活動にもICTの活用が進められている。
A
・高校1年生の入学指導において、市町村の中学校から育徳館高校に入学する生徒の不安を払拭し、安心して学べる環境作りが徹底されている。
・授業や部活動、学校内外の活躍を引き続き強力で支援し、学校の教育力を地域に示す事が必要である。

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・英語が話せる人物の育成を図るため、校内各種コンクールの実施や、検定その他の外部団体に積極的に参加する生徒を増加させる。
・キャリア教育の更なる充実と、進路指導體系の改善を図り、難関大学や医歯薬学部をはじめ、国公立大学や私立大学の合格者を増やす。
・文武両道の校風に基づき、生徒会活動や部活動をさらに奨励し、地域の中学校や併設中学校との交流を図りながら、生徒の成長を促す。
・魅力ある授業を中心とした教育活動の発展を通して、生徒の学習意欲や学校満足度を高めるとともに、本校の魅力を中学校や地域に積極的にアピールする。
・全ての教育活動において人権教育をその基盤とし、道徳教育や安全教育を推進することで、生徒の自尊感情や他者を尊重する精神を醸成する。

評価項目以外のものに関する意見
・生徒や保護者、地域から育徳館高校が求められているものを踏まえた教育活動推進が重要である。
・進路実績や部活動の活躍など、生徒の活躍や学校の良さをさらに地域にPRする必要がある。